

世界遺産への登録をめざす 武家の古都・鎌倉ニュース

第9号 平成20年(2008年)10月発行
発行 鎌倉世界遺産登録推進協議会
編集 広報部会 編集人 内海恒雄
事務局 〒248-8686 鎌倉市御成町18-10
鎌倉市世界遺産登録推進担当
Tel.0467-61-3848 Fax.0467-23-1085
E-mail: sekaiisan@city.kamakura.kanagawa.jp

日本イコモス国内委員会研究会（東京）で 近藤誠一・前ユネスコ日本大使が講演



近藤誠一 前ユネスコ日本
政府代表部特命全権大使

9月はじめ、近藤誠一・前ユネスコ日本政府代表部特命全権大使が、東京・湯島聖堂講堂での日本イコモス国内委員会研究会で、「世界遺産：ユネスコの課題・日本の課題」について講演を行いました。

石見銀山の世界遺産登録、平泉の登録延期をめぐる討議にも参加された近藤大使は、パリのユネスコ本部での2年間にわたる体験を踏まえて、「世界遺産の曲がり角」という視点から ① 世界遺産条約の成立の経緯 ② 世界遺産の概念の推移 ③ 石見、平泉の記載延期 ④ 今後の世界遺産運営の4点について現状を報告、世界遺産登録をめざす鎌倉にとっても貴重な内容でした。

まず1972年の世界遺産条約の成立については、「ヌビア遺跡保存から始まった。寄付金を集め、アブ・シンベル神殿の移転にとりかかったが、グローバリゼーションを背景に、主権国家でできなかったことが増えてきて、いかにして問題に対処し、遺産を守るかといったことを考えねばならない状況になった」と現状分析しました。

オマーンにおけるアラビアオリックス保護区の世界遺産末梢について「域内で石油や天然ガスが見つかり、アラビアオリックスを守っていくつもりはないので、世界遺産から外してほしいといわれた」と、世界遺産委員会で議論になった事例を紹介、近藤大使は「徹底的に世界遺産を守ろうとすればするほど、国家主権との対立が強くなる。ユネスコという超国家的な仕組みを進めていかなければ、解決のメドは立たない」と述べました。

昨年世界遺産に登録された石見銀山については、「数少ない旅館の跡取りが十分いなかったのだが、この1年間客が増えたことで跡を継いだ方がいいかも知れないと見る人が増えた。京都、大阪からのUターンも見られ、予想されなかったプラス効果である」と指摘しました。

また登録基準の一つである「顕著な普遍的価値(outstanding universal value)の実態について、一番大事なのはモノの間にあるつながり、目に見えないものを重んずること。目に見えるものだけではないということ、を、ぜひわかってほしい」と述べました。中世のモノが少ないとされる鎌倉にとっても支援となる貴重な見解といえます。

松浦晃一郎 ユネスコ事務局長が世界遺産アカデミーで講演 観光との関わりで地元の意識改革に期待を表明

8月27日、松浦晃一郎ユネスコ事務局長を迎えて、NPO法人世界遺産アカデミー主催による「観光と世界遺産」をテーマとした講演会とシンポジウムが東京・永田町の憲政記念館で開かれました。

基調講演した松浦事務局長は平泉の登録延期に触れ、「枠組みを変えてもう一回検討して出直すということなので、決して拒否ではなかった」と述べました。また平泉の遅れで有力な世界遺産の案件が「全体として残念ながら、ずれ込む見通しで

ある。とりあえず平泉に集中してやる」との認識を示しました。

主要テーマの観光との関係については「(世界遺産になることは)観光客増につながり実質的な収入にもなる。地域のアイデンティティをしっかりと確立することにもなる。それだけにそれをしっかりと守って、世界につないでいくという責任が地域社会に生ずる」として、地元の意識改革を訴えました。